

3 千葉保健医療圏の医療提供体制と医療需要の見通し

(1) 現在の千葉保健医療圏の主な公的医療機関

千葉保健医療圏（千葉市域）には、千葉大学医学部附属病院、国立病院機構千葉医療センター、千葉県がんセンターなど、国及び地方自治体が設置した病院が13（千葉市桜木園は除く。）あります。34の民間病院を含めると千葉市全体の病院数は47となり、比較的充実した医療体制となっています。

ア 基準病床数

平成23年4月に改定された千葉県保健医療計画では、千葉保健医療圏の必要な病床数として、基準病床数は7,794床とされ、現時点では過不足病床は生じていません。

イ 循環型地域医療連携システムにおける両病院の役割

千葉県保健医療計画における5疾病（がん、脳卒中、急性心筋こうそく、糖尿病、精神疾患）、4事業（救急医療、災害時医療、周産期医療、小児医療）において、両病院では以下のとおりの役割を担っています。

①青葉病院

5疾病では、肺がん・肝がん・胃がん・大腸がん・乳がん・子宮頸がん／子宮体がん対応医療機関、緩和ケア診療を実施する医療機関、脳卒中急性期対応医療機関、回復期リハビリテーション対応医療機関、急性心筋こうそく対応医療機関、糖尿病専門医と連携して網膜症・神経症状・壊疽・壊死を扱う医療機関及び精神科病床を有する総合病院として位置づけられています。

4事業では、二次救急医療機関、災害医療協力病院、分娩を取り扱う病院及び小児救急に対応する病院として位置づけられています。

なお、海浜病院に続き、平成26年4月から、千葉県がん診療連携協力病院（胃がん・大腸がん）に指定されました。

②海浜病院

5疾病では、千葉県がん診療連携協力病院（胃がん・大腸がん・乳がん）、緩和ケア診療を実施する医療機関、回復期リハビリテーション対応医療機関及び急性心筋こうそく対応医療機関として位置づけられています。

4事業では、二次救急医療機関、初期救急医療機関、地域災害拠点病院、地域周産期母子医療センター及び地域小児科センターとして位置づけられています。

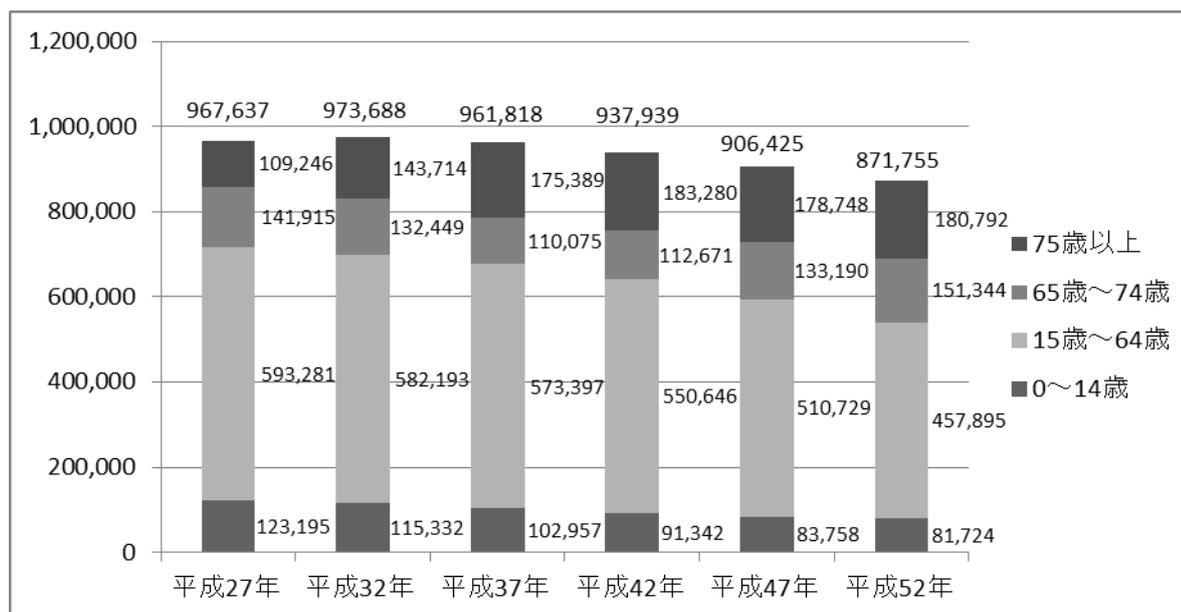
なお、平成25年8月に、地域医療支援病院の承認を受けました。

(2) 千葉保健医療圏における医療需要の見通し

ア 千葉市将来人口推計

「図表2千葉市の将来人口推計」（平成26年5月公表）のとおり、総人口は平成32年をピークに減少に転じる予測ですが、65歳以上の高齢者人口に関しては一貫して増加傾向となっています。

(単位：人)

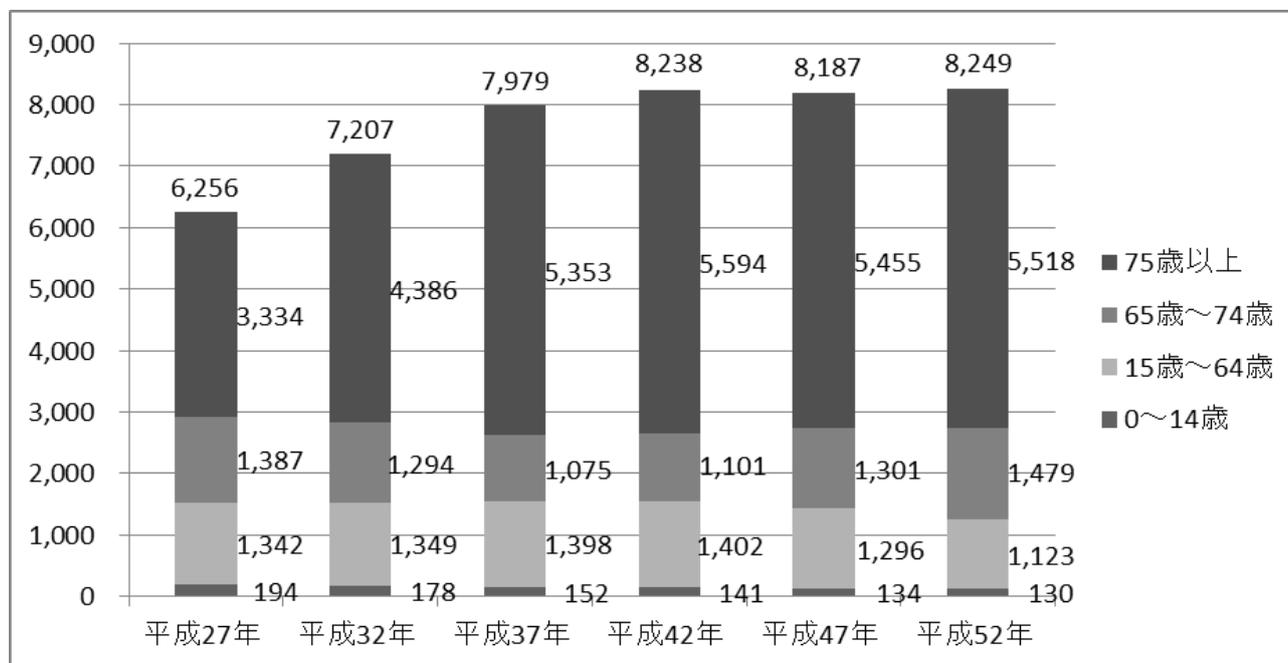


図表 2 千葉市の将来人口推計

イ 千葉市将来入院患者数推計

千葉市の将来人口推計と千葉県の年齢階層別受療率¹（精神科は除く。）を用いて将来入院患者数を推計すると、「図表 3 千葉市将来入院患者数推計」のとおり、入院患者数は平成 37 年まで急激に増加し、その後は横ばいとなっています。年齢階層別にみると、小児の入院患者数は減少傾向にあるものの、75歳以上の患者の増加率が非常に大きくなっています。

(単位：人)



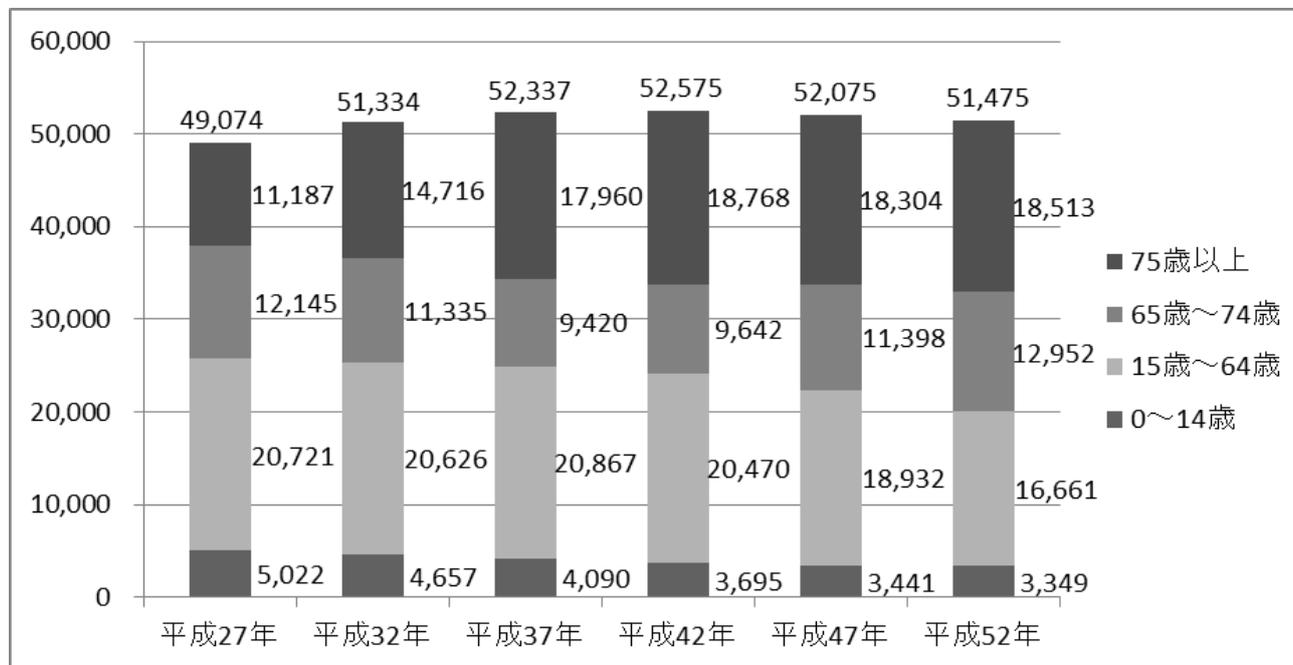
図表 3 千葉市将来入院患者数推計

¹ 資料：平成 23 年患者調査（厚生労働省）

ウ 千葉市将来外来患者数推計

千葉市の将来人口推計と千葉県の子齢階層別受療率（精神科は除く。）を用いて将来外来患者数を推計すると、「図表4千葉市将来外来患者数推計」のとおり、外来患者数は平成42年をピークに若干減少傾向にあります。外来患者に関しては、高齢者は増加傾向があるものの、入院に比べると低い増加率となっています。

（単位：人）



図表 4 千葉市将来外来患者数推計

エ 総括

現在の入院と外来の受療率を用いて推計した千葉保健医療圏の将来医療需要は、医療需要の高い高齢者が大幅に増加することから、当面の間は増加が続く見込みであり、短期的な課題としては、がんなどの悪性新生物への対応とともに、相対的に高齢者の受療率が高い認知症、循環器、呼吸器及び運動器疾患への対応が求められています。

しかしながら、増え続ける入院需要に応じて、病院などの医療施設の増設を続けることは、人的、財政的な面から困難であり、現在の病院完結型医療から、地域包括ケアシステムを確立し、地域全体で医療の質の向上と効率化を図る地域完結型医療へ移行する必要があります。

市立病院には、地域包括ケアシステムの確立への貢献など、地域完結型医療への移行において主導的な役割が期待されています。